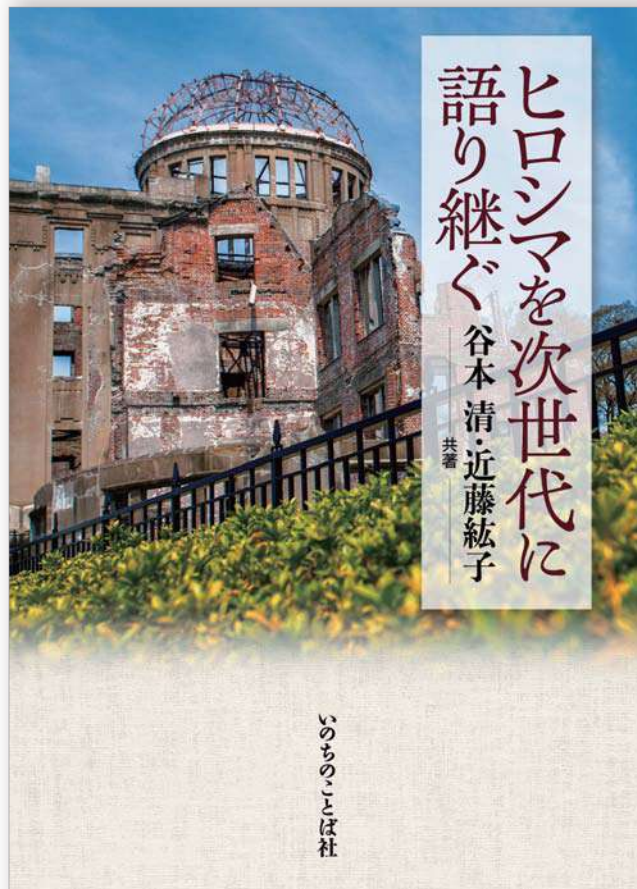


被爆・戦後 80 年。この時代だからこそ、
核兵器がどのようなものか、平和がいかに貴いかを伝える



ヒロシマを 次世代に語り継ぐ

谷本清、近藤紘子 共著

1945 年 8 月 6 日に広島へ投下された原爆のきのこ雲の下
の惨状を、若い一牧師が回顧する。瓦解した教会から奇跡
的に救われたその愛娘の歩みと、やがて気づいた父親の思
いを告げる。

谷本清（たにもと・きよし）

1909 年 6 月、香川県坂出市に生まれる。1928 年に香川県立坂出商業学校在学中に受洗し、同校を卒業。1929 年、関西学院神学部に入學し、学生時代に大阪築港教会の伝道師となり、卒業後、渡米して 1940 年にアメリカ・エモリー大学大学院を修了。1941 年帰国し、日本メソヂスト教会の牧師として、鹿児島県国分、加治木の諸教会、さらに日本基督教団の成立後には那覇中央教会、そして広島流川教会で奉仕する。広島流川教会では、39 年間牧師として働く。ヒロシマ・ピース・センター設立者。1986 年 9 月 28 日、召天。

近藤紘子（こんどう・こうこ）

1944 年（昭和 19 年）11 月、広島流川教会牧師の谷本清・チサ夫妻の長女として生まれる。被爆するも奇跡的に助かり、1963 年に桜美林高校卒業後、アメリカに留学し、1966 年にセンテナリー短大、1969 年にアメリカン大学を卒業。世界の子どもたちとともに平和を訴える「財団法人チルドレン・アズ・ザ・ピースメーカーズ」の国際関係相談役を務め、現在、国内外で講演活動を行っている

B6判 112頁 定価1,430円(本体1,300円+税)

ISBN978-4-264-04602-8 C0016

いのちのことば社卸コード 29265